「広島へ行って」

北中学校　二年　日髙　涼輔

広島に原爆投下されてから七十一年、広島には原爆が投下された跡はほとんど残っていませんでした。しかし、被爆者の記憶は消えていませんでした。

「呼吸ができる事が私にとっての幸せ」と被爆者の方はおっしゃっていました。僕はこのことを聞いて生きているという事は、決して当たり前ではないと改めて思いました。

僕は去年もこの事業に参加しましたが、去年と今年では全く違う体験をさせていただきました。今年は、被爆者の方の体験談をうかがい、原爆投下当時のことをとても詳しく語っていただきました。去年と今年では、体験した内容こそ違いましたが、どこの、どんな人でも、平和に対する思いは同じなんだと感じました。今回、被爆者の方の体験談を聞かせていただくと同時に、原爆の爪痕を実際に見せていただきました。今まで被爆者の方の

20 × 20

姿をテレビで何度か見させていただきました

が、被爆者の方は、傷はないように僕は感じていました。しかし、それは違いました。体験談を聞かせていただいた被爆者の方の首もとには、被爆当時着ていたシャツの痕が残っていました。七十一年経ってもその時の痕が残っているということに驚きました。七十一年経っても消えない傷を負わせる原爆の恐ろしさを改めて実感しました。

僕はこの二日間で、人生の中でもう二度とできないような体験をさせていただきました。

資料館の展示物や、被爆者の方の体験談から原爆の恐ろしさや、平和の大切さを感じました。僕は今回経験したことを踏まえ、もう二度と世界に原爆が落ちて悲惨なことが起こらないように、広島に行った一人として、訴えていきたいです。

20 × 20